令和３年（２０２１）

■ ９ 月 １７ 日（金）（つづき）

② 第２区（南側の調査区）の調査

斜面貝塚の調査を継続しています。

貝層上面から 30 ㎝まで掘り進めました（写真１）。

当初、後期中葉加曽利（かそり） B1 式の単独の貝層と認識していましたが、加曽利 B1 式から加曽利 B2 式にかけての複数層からなる斜面貝層であると認識を改めています。

写真１　貝層調査のようす

貝層の西側末端部では、比較的密度の高い、ヤマトシジミ主体の貝層が堆積しています。時期は加曽利 B2 式だと思われます（写真２・３）。

そして、その東側には、貝層の密度の低い、加曽利 B１式から B２式にかけての茶褐色の混貝土層が堆積し、さらにその東側斜面上方には暗褐色の混貝土層が堆積しており、時期は加曽利 B1 式でした（写真４・５）。

写真２　密度の濃い貝層

写真３　写真２のアップ　貝の主体はヤマトシジミ

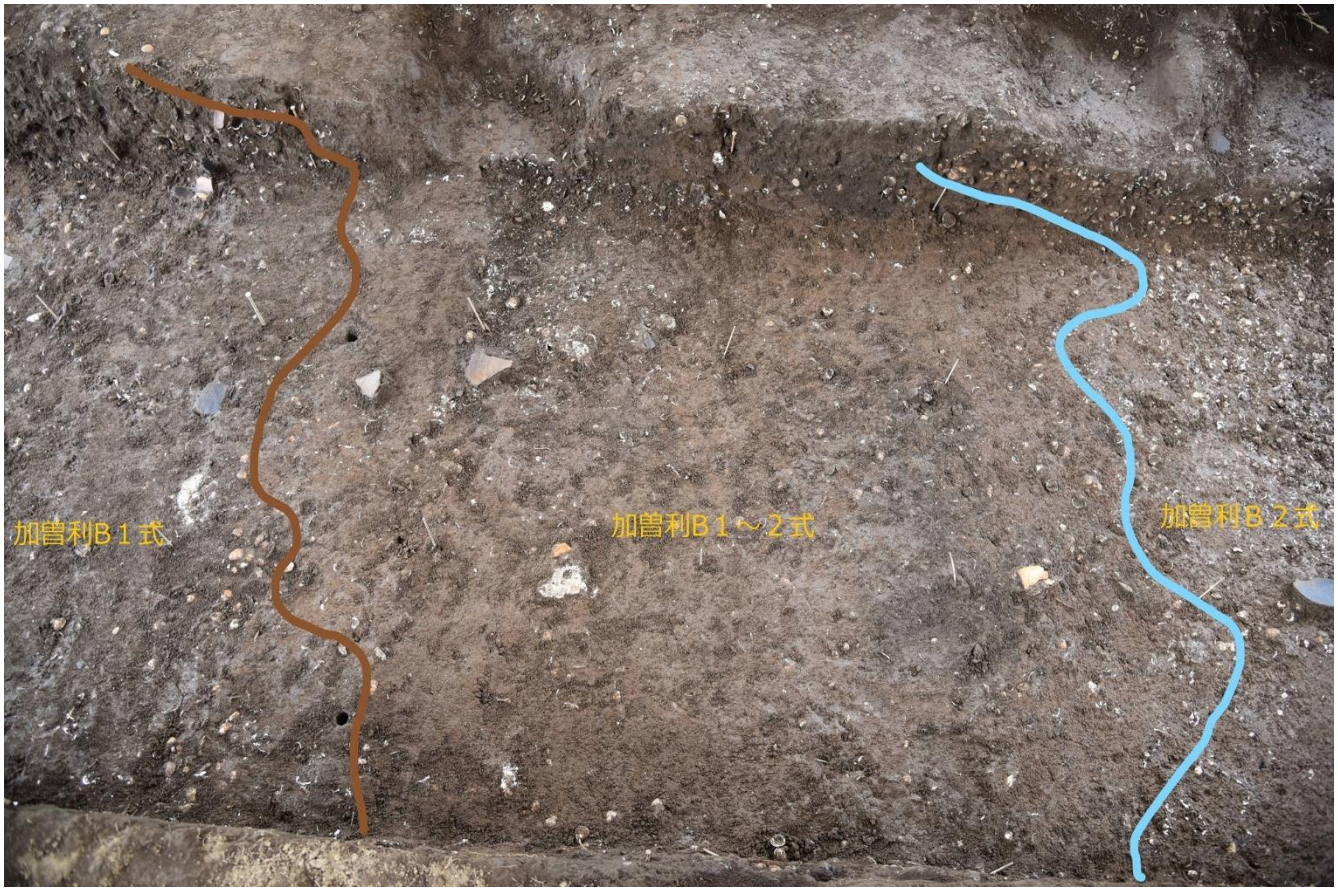

写真４　重なり合う貝層

写真５　東側斜面上方の貝層から出土した加曽利 B1 式土器

調査区東端では、貝層の下から後期前葉堀之内１式を主体とする遺構覆土を検出しています（写真６・７）。昨年度、今回の調査区の東隣で堀之内１式の住居跡を検出していることから、その続きであると想定しています。

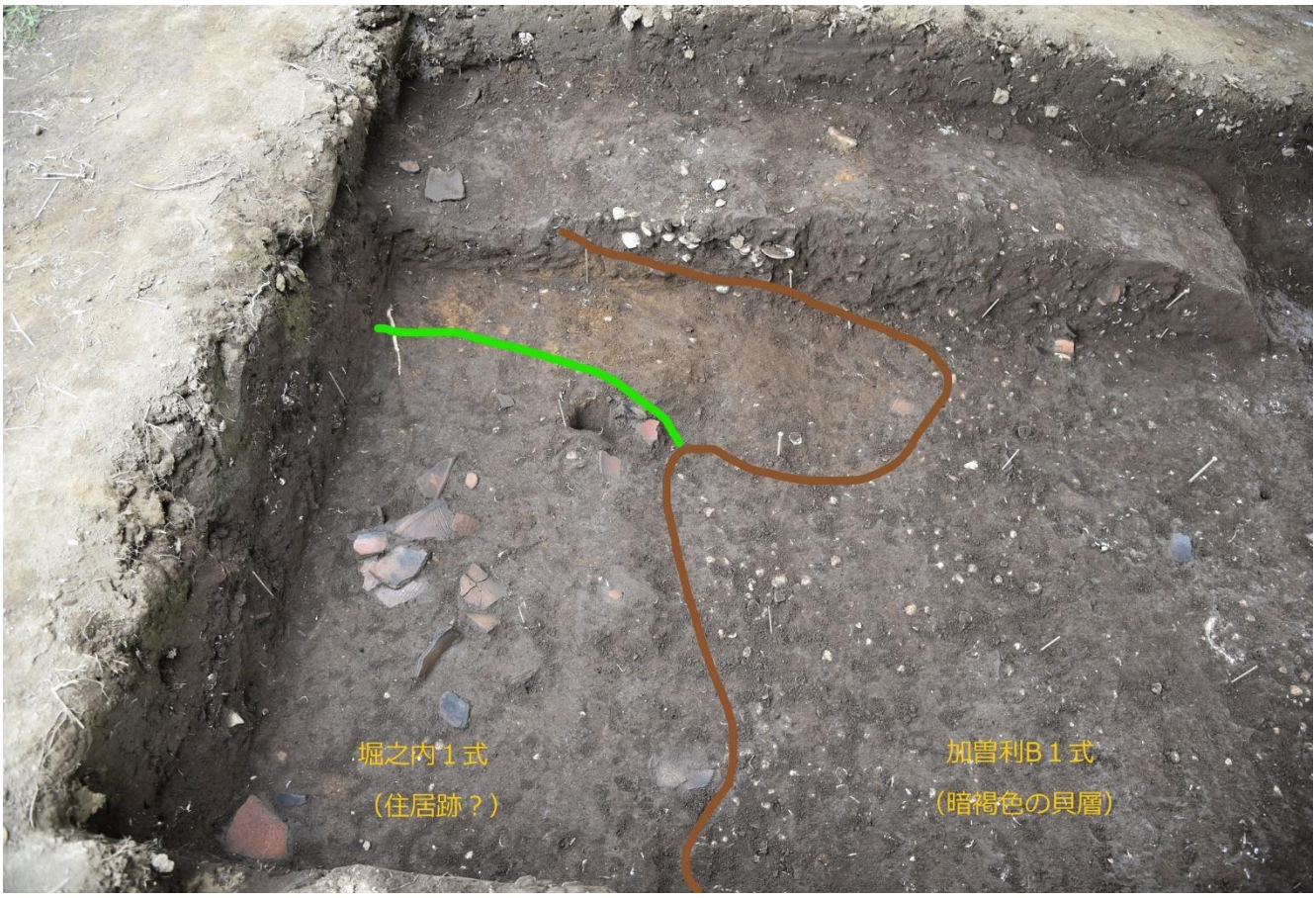

写真６　貝層の下に姿を現した堀之内１式の土層（住居跡？）

写真７　堀之内１式土器